

大学院看護学研究科 博士前期課程		授業 科目	慢性病ヘルスアセスメント Health assessment in Chronic illness			担当 教員	池田清子(専任) 中村武寛(非常勤) 足立了平(非常勤) 城洋志彦(非常勤) 他	
開講年次	1年次前期	単位数	1単位	科目 分類	専門科目 実践看護学	授業形態	講義、演習	
選択必修	選択	時間数	15時間			使用教室		
授業の目的及びねらい								
		糖尿病や神経難病をもつ人に対するフィジカルアセスメント技術(身体診察、問診)ならびに心理・社会的なアセスメント能力を開発し、対象の障害と障害による生活への影響を考慮したケアを考えることができる。						
授業のキーワード								
		糖尿病事例、神経難病事例、嚥下障害、診断過程、アセスメント技術、ケア						
講義回数	授業内容及び計画							
第1回	I. 糖尿病の診断、合併症の診断 事例に基づく診断過程と診断技術 視診の実際と検査値の見方 ・ 自覚症状のアセスメント(倦怠感、末梢のしびれなど) ・ 神経系のアセスメント(腱反射、知覚障害など) ・ 循環器系のアセスメント(末梢動脈の触知、ABIなど) ・ 視覚機能のアセスメント						〔中村〕	
第2回	II. 神経難病の診断 事例に基づく診断過程と診断技術 ・ 神経系のアセスメント						〔城〕	
第3回	III. 嚥下障害の評価とケア ・ 栄養障害のアセスメント ・ 嚥下機能のアセスメントと治療						〔城〕〔一丸〕	
第4回	IV. 口腔のアセスメントとケア						〔足立〕〔上原〕	
第5回								
第6・7回	V. 慢性病者の心理社会的要因に関するアセスメント(QOL, ADL, 自己概念, 保健行動など)						〔池田〕	
テキスト 参考文献	日本糖尿病学会編(2006):改訂第3版 糖尿病専門医研修ガイドブック、診断と治療社 伊藤公一、野口俊英、村上伸也監訳(2003):AAP 歯周病と全身疾患との関わり、クインテッセンス出版株式会社 *その他、適宜参考書を提示します。							
成績評価の方法	演習における取り組みおよび参加態度(70%)、課題レポート(30%)から総合的に判断する。							
教員からのメッセージ	病態生理に基づくアセスメント技術を習得することにより、慢性病にともなう多彩な機能障害や症状を客観的に評価する過程で必要となる知識や技術を習得してほしいと思います。できるだけ臨床現場に出向き、臨床の先生方ともに授業を展開したいと考えていますので、皆さんの積極的・自主的な学習姿勢を期待しています。							